

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2671400253		
法人名	ウェルコンサル株式会社		
事業所名	フレンド平城山・山城 (平城山)		
所在地	京都府木津川市梅美台2丁目1-1		
自己評価作成日	令和元年6月5日	評価結果市町村受理日	令和元年10月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&amp;JiyosvoCd=2671400253-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&amp;JiyosvoCd=2671400253-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和元年7月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホームで生活されていても、個々の要望やご家族の要望等、お聞きし、可能な限り要望にお応えする様に心掛けています。また、ご家族様やご友人の方が面会に来られた時は季節や時間に応じた飲み物やおしぼりをお出しし、おやつ作り等の時間に来られた時は一緒に作って頂いたり、ご家族様にも楽しんで頂ける様にしています。又、近隣の職場体験の受け入れや地域のゴミ清掃・夏祭り等にも出店協力を行ったり、地域の集会場を借りて敬老祭を行い、近隣住民の方にも声を掛け交流する様に努めています。慰問や外出レク等にも力を入れています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当該事業所は地域との連携を理念に謳い地域との関わりを大切にし、清掃活動や夏祭りには利用者と一緒に参加し、地域の集会場で行う事業所の敬老祭には地域の方の参加を得て交流を図っています。年2~3回近くの保育園との交流以外にも月1回のフラワーアレンジメントや日本舞踊、ギター演奏等のボランティアの来訪もあり地域との良好な関係を築いています。職員のチームワークは良好で意見も言いやすい環境にあり職員の得意分野を様々なところに活かし、職員が同じ方向を向き排せ支援においてもほとんどの利用者が布の下着で過ごせるよう取り組んだり、安易に車椅子を使用するのではなく手引き歩行で移動してもらおうなど利用者の自立支援に向けて取り組んでいます。食事は盛り付けなど利用者のできることに携わってもらい三食共事業所で作っています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1.自分らしい安心できる生活をお手伝いします。 2.入居者の尊厳を守ります。 3.地域との連携に努めます。 1～3の運営理念を玄関先・台所に掲げ、目につく様にして日々実践する様心掛けている。	設立当初に作成した法人理念を玄関や台所等見えやすいところに掲示したり、新任入職時には理念に対する思いなどを説明し職員に意識づけを行っています。月1回のケア会議では地域との連携やその人らしい暮らしを意識しながら話し合いケアプランに反映させるなど日々のケアが理念の実践に繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の会員になり、地域清掃にも参加、夏祭りでも出店協力を行い、敬老祭を地域の集会場で行い、近隣住民に来てもらったりと等で交流できる様、心掛けている。	日々の散歩や買い物時には出会った地域の方と挨拶を交わしたり、地域の清掃活動や夏祭り等に利用者と一緒に参加し交流を図っています。また、事業所の敬老祭を地域の集会所で行い地域の方の参加を得ています。併設の保育園とは年2～3回の交流があり利用者の楽しみごととなっています。菜園の手入れやギター等の楽器演奏、アニマルセラピー等のボランティアの来訪もあり地域との関わりが広がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症介護の相談や見学を受け入れている。また、地域の中学校の職場体験の受け入れを行い、認知症という病気の説明や触れ合いを持つ場の提供をする事により認知症についての理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月の第2金曜日に運営推進会議を開催している。運営推進会議時に、毎月の行事・活動報告を行っている。また、出席者のアドバイスを聞き、サービスの向上に努めている。	会議は家族代表、地域の米屋、市職員、地域包括支援センター職員の参加を得て2か月に1回開催しています。利用者の状況説明や空床状況の報告の他写真を見てもらいながら行事の説明をしています。家族から市職員や事業所職員への質問があり都度返答したり、市職員からアドバイスをもらうこともあります。また、身体拘束適正化委員会として会議の中で話し合いを行っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢介護課とは、何かあった際連絡を取り、相談等協力関係を築いている。また、ホームの現状の把握や、何かあった際は高齢介護課からも連絡を下さっている。	運営推進会議に市職員の参加があり、事業所の理解を得ており議事録も毎回届けています。事故報告や書類の手続き等で窓口を訪問した際に分からない事等アドバイスをもらうこともあります。アンケート調査の依頼や感染症や食中毒等の注意喚起が届いた際は職員に伝えています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回、運営推進会議内での委員会を発足、拘束についても話をしたり、アドバイスやご家族様等の経験をお聞きしている。また、ウエルグループ内でも研修があり、参加したり、ケア会議でも拘束について話や勉強会を行い、スタッフが周知出来る様に心掛けている。	法人主催の研修が年2回あり参加した職員が事業所で伝達講習をすると共に3ヶ月に1回は会議の中で拘束等についての話し合いを行い理解を深めています。不適切な言葉かけが見られた場合は管理者が注意をしており、外に出たい様子が見られた場合はユニット間の行き来や職員が付き添い階段を昇り降りしたり、散歩に出かけるなど閉塞感のないようケアに努めています。	

フレンド平城山・山城（平城山）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を年に2回は行い、どのような事が虐待にあたるのか、虐待の種類等を伝えている。また、ニュース等で取り上げられた時も、極力発信するようにしている。虐待は見られておらず。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修等行ったり、実際にご利用者様でもいらっしゃる為、各スタッフに説明し理解してもらえる様心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項の説明・利用契約書等、入居の際に必要な書類を示し、説明している。また、質問の時間も設け、質問が挙がった場合は理解されるまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者を始め職員は、日頃の対応や会話の中より意見や要望を汲み取る様に心掛けている。面会に来られた家族様からの不満・苦情・要望等についても真摯に受け止め対応している。契約時には苦情相談窓口についての説明も行っている。また、ケア会議や勤務時にも情報交換や意見交換を行い、運営に活かしている。	家族の面会時には必ず会話をするようにし要望等を聞き、面会の少ない家族からは電話で聞くようにしています。レクリエーション等に参加させてほしいや散歩をさせてほしい等の要望があり利用者のできることに参加してもらったり、気候や時間を見ながら散歩に出かけるなど、得られた意見を支援に反映するよう努めています。また、利用者からは日々の中で要望を聞き、特に誕生日には食べたい物を聞き献立や外食に反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より、職員が意見を言いやすい雰囲気作りを行っている。職員の意見や提案を傾聴し、良いと思うものは職員と相談しながら反映出来る様にしている。	職員からは日々の業務の中でその時々でのケアの仕方等について意見や提案があがり、月1回のケア会議で話し合ったり、様々な意見や提案を聞き業務改善等に繋げ、出された内容については申し送りノートにて共有しています。食品担当や備品担当、便り作成担当からも意見が挙がる事があつたり年2回の職員面談時の他、随時意見や提案を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	GMやマネージャー・リーダー長等、上司の方々が管理者や職員の相談等、聞いて下さり、仕事に対してやりがいや向上心を持って働けるような職場環境になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各事業所では、OJTという教育活動に力を入れており、チェックリストに添って指導を行い、職員全体のレベルアップに努めている。また、ウェルグループでの社員研修も取り組んでおり、参加希望の職員に参加してもらっている。		

フレンド平城山・山城（平城山）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内での交流する機会(音楽祭・学会・健康祭り・スポーツイベント・花見等)を設けて頂いたり、研修もある為、極力参加する様に心掛けている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者に関しての問い合わせ時や、初期面談時には、ご本人の困っている事や不安に思っている事を傾聴して受け止めさせて頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の面談時にご本人様・ご家族様の要望や困っている事をお聞きし、自施設以外を含め、どのようなサービスがあり、受ける事が出来るのか等を話し合える関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご本人様、ケアマネージャー様やご友人等、ご本人に関わりのある方より聞き取りや、会話の中より必要であると思われる支援を見極め、優先順位を考慮しつつ、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各個々の残存能力の見極めを行い、その方のできる事(食事準備・洗濯干し・たたみ・テーブル拭き・掃除等)を本人の意向を伺いつつ、して頂く様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様棟、面会時には必ず入居者様の様子の報告や来られない方へは電話連絡を行う様にしている。又、毎月一言通信(入居者の1か月のご様子を記入した手紙)や笑顔便り(1か月の活動内容の写真)を送付する事で、家族との関係の維持・向上に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚の方やご友人の方が面会に来られた際にもご家族様と同様の対応を行い、いつでも来れる様な雰囲気作りを行っている。	友人や親戚の面会があり、居室やリビングなど選んでもらいお茶などを用意しゆっくり過ごしてもらえるよう配慮しています。家族と自宅に帰ったり、法事や墓参り等に出かける際は身支度等出かけるまでの準備をするなど、今までの関係が継続できるよう支援しています。	

フレンド平城山・山城（平城山）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士でコミュニケーションが図れるよう、職員が間に入り、会話をしたりみんなで楽しめるレクリエーション等の提案も行う様、心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族様からも、連絡を頂いたりすることがあり、入居当時と同様の対応をさせて頂いている。又、入院されている場合はお見舞いの許可を頂き、行かせて頂いたりもしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との意思疎通が難しい方も増えてきたが、発言や行動より本人が不快感にならないよう、笑顔で過ごせる様に対応を心掛けている。また、意向の聞き取りが可能な方は極力意向に添える様に心掛けている。	入居前、自宅や病院、施設等本人が暮らしている場所へ出向き、本人や家族と面談し生活歴や現在の暮らし、趣味、嗜好、意向等を聞きアセスメントシートに記載し思いの把握に努めています。以前担当のケアマネジャーからも情報を得ています。入居後は日々の会話や困難な場合には表情や様子から汲み取り申し送り時に職員間で話し合い申し送りノートにて共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報をご家族様やご本人様、ケアマネージャー様等、関係者より面接時や電話等で4直接聞き取りを行い、アセスメントシートを活用して各スタッフに情報を提供し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の個々の過ごし方、心身状態等をスタッフ同士で把握し、申し送りノートやケア会議等で伝達する事で個々に合わせたケアを行っている。また、インシデントやアクシデントの情報を職員間で共有する事により、個別の状態の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃からご家族様・ご利用者様・関係者の方等よりご意見やご要望等を聞かせて頂き、スタッフの意見等も加えて検討し、介護計画を作成している。	本人や家族の意向、アセスメントを基に作成した介護計画は月1回カンファレンスで状況を話し合い3ヶ月毎に評価をし、6ヶ月毎に再アセスメントを行い見直しています。家族の意向や医師等の意見は事前に聞き必要に応じて計画に反映しています。今後は1年毎の見直しを基本とし毎月モニタリングをする予定です。日々の介護記録は計画の実施状況がわかるように記載しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個々にファイルを作成し、日々の様子やバイタル値・排泄状況・食事・水分量・往診時の記録を残している。又、日常の変化や気づきも記録に残す事で、個別ケアに反映出来る様、ケア会議等でスタッフ間の検討も繰り返し行っている。		

フレンド平城山・山城（平城山）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症共同生活介護のため、多機能を有しているとは言えないが、空床もあればお試しの利用も可能である。又、2ユニットでの合同の行事を行ったり、時にはエバホームとも合同で行ったりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事には極力参加し、本人に合わせた行事に参加して頂く様にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に往診があり、病院や薬局とも連携している。他の専門医についても受診や往診が必要な時には主治医やご家族と相談し、往診や受診して頂いている。	入居時にかかりつけ医の継続について説明し協力医に変更した利用者もあり、2週間に1回の往診を受けています。かかりつけ医を継続している場合や専門医への受診は家族が対応し、必要に応じて職員が対応しています。利用者の状況等については書面や口頭で伝えています。歯科は必要な方が往診を受けており、マッサージについては週1回希望や必要に応じて受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で気付いた事等を看護師に伝え、適切な受診や看護が出来る様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族を交え、病院担当者との利用者の現状や予後話し合う事で、早期の退院・早期のホームでの生活の復帰を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の方がいらしたが、ご家族の希望で最期を看取らせて頂いた。その際、ご家族にも状態の説明等電話や面会時にお伝えし、職員にも状態の変化の度にケア方法の発信をし、主治医やウエルグループの医療の上司等にもこまめに報告する事により、方針の共有を図った。	入居時に看取り支援について家族に説明し、重度化した場合は病院を受診し医師より病状の説明があり、家族の意向を確認し頻回な面会等家族の協力も得ながら事業所で看取り支援をしています。職員は話し合ったこと等ケアの内容を申し送りノートにて共有し、不安が軽減するよう職員間の連絡体制を整え、勉強会も行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルの作成を行い、全職員への発信・周知を行っている。		

フレンド平城山・山城（平城山）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練計画の作成を行い、年に2回、エバホーム・はるみ保育園と共同で避難訓練・消火訓練を行っている、地域の防災訓練についてはされていない。	年2回昼夜を想定し避難訓練を行い内1回は消防署の立ち合いの下行うこともあります。通報や水消火器での初期消火、利用者も参加し避難誘導を行い避難に要する時間を計ることもあります。地域への案内や協力体制に向けた話し合い等はなされておらず課題としている状況です。飲料水や食料等を備蓄しています。	地域へ避難訓練の案内と参加依頼をするなど地域との協力体制を築くよう働きかけられてはいかがでしょうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者個人の人格を尊重して言葉掛けや対応方法を行える様、職員の意識の統一を図っている。また、グループ内でも接遇の研修もある為、参加し、職員に発信している。	法人主催の接遇や尊厳等についての研修を行い事業所にて伝達し理解を深めています。利用者への言葉かけは基本は敬語で呼称は苗字でと職員に伝えています。不適切な対応が見られた場合は都度注意をしたり会議の場でも伝えています。羞恥心を伴う介護時には希望があれば同性介助に配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望の献立や希望のレクリエーション、ご利用者の好きな事等を把握し、内容をご本人に聞きながら自己決定を意識し、取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の対応を優先し、入居者に合ったペースでの介助を心掛けている。入居者個々のライフスタイルに合わせ、居室で過ごされている時には無理にリビングへ出て来て頂くのではなく、居室外からの見守りや訪室して談話している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思疎通の可能な方は衣類の選択が出来る様に、個々に応じて声掛けや介助を行っている。意思疎通の難しい方の場合には日々同じ服にならない様にしている。またヘアカラーをご希望される方に関しては、訪問美容でホームでの対応を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立には利用者の好みや希望を反映出来る様、心掛けている。季節感を感じる献立や、昔ながらの行事食・誕生日の特別メニュー等も行っている。また、盛り付け等も出来るご利用者と一緒に行っている。	食事は週に1~2回食材の買い物に行き、その日の在庫の品を見て利用者の好みも聞きながら献立を立てています。利用者にも盛り付けや後片付け等できることに携わってもらい一緒に作っており、菜園で収穫した野菜等も食膳に上がることもあります。手作りおやつその他、寿司や弁当などを買ってきたり、カニ鍋や焼き肉等のイベント食、暦の上での行事食など職員と食卓を共にし食事が楽しみなものとなるよう工夫をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の栄養バランスや病歴に応じて塩分・糖分量を控えめにしたり、食事量を考えて対応している。また、一日分の水分量を確保出来る様、個々の状態把握を行い、支援している。		

フレンド平城山・山城（平城山）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの誘導・介助を行っている。また、必要に応じて舌ブラシや歯間ブラシ等も使用している。痛みや義歯の不具合等、治療が必要な場合はご家族に連絡し、同意を得てから歯科往診を行っている。義歯は夜間義歯入れで消毒し、お預かりしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄チェック表で昼夜トイレ誘導を行う事で、出来る限りトイレで排泄出来る様に介助をしている。トイレへの誘導・介助(特に失禁時)は他の利用者にも配慮しさりげなく行う様、心掛けている。	全利用者の排泄一覧表を基に個々のパターンやリズムを把握し、トイレへの声かけや誘導をすることによって布の下着に変更する利用者が増えていきます。日中は全員トイレでの排泄を基本に支援しています。申し送り時やケア会議にて排泄用品や支援方法について話し合い自立に向かうよう取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になりやすい利用者が多い為、水分を多めに摂取してもらったり、便通の良い食物を取り入れる様心掛けている。定時を含め、排便がしやすいと言われている食後にトイレ誘導を行ったり、個別の排泄パターンの把握に努め、個々に合わせたトイレ誘導も行っている。また、散歩や体操で腸の運動を促す様にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に合わせた入浴介助を心掛けている。入浴は個別浴とし、脱衣場の扉を閉め、プライバシーの配慮を行っている。	入浴は週に2回を目途に午前から声をかけ支援しており回数を増やしたいという要望があれば検討しています。入浴を拒否される場合は毎日声をかけたり、声かけの工夫やタイミングを見計らって無理のないよう入浴に繋げています。季節の柚子湯や入浴剤を使用することもあり、重度の方も湯船に浸かってもらい職員とコミュニケーションをとりながらゆっくりと入ってもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩や掃除等、日常生活に沿った活動を通じ、個々に合った生活リズムを作る様にして、安眠に繋げている。また、日中も傾眠されていたら、少し午睡して頂いたり、自身で居室で休まれる方もいるので、室温調整も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的や副作用・容量については医師の指示等を確認し支援にあたっている。また、医師と相談しながら、服薬の変更・調整等も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除(掃除機・モップ掛け)や洗濯(干し・たたみ)食事の盛り付け等、利用者の能力に応じて役割を分担し、行っていける様に援助している。		

フレンド平城山・山城（平城山）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や近くのコンビニへの買い物等、一緒に行っている。また、季節に応じて外出の計画を行い、参加して頂いている。自治会の催し(夏祭り)や地区の清掃活動にも職員と共に参加して頂いている。	日々の散歩や買い物、地域の行事への参加の他、初詣、桜やあじさい、コスモス等の花見、紅葉見学等季節毎の外出や法人グループの音楽祭への参加等外出の機会を多く作っています。また、屋上や玄関、隣の動物病院のベンチに腰かけ外気浴をしたり、家族と一緒にフードコートでの外食、併設の保育園の子どもたちの顔を見に行くこともあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様と相談の上、利用者個々のお金を預かり、管理している。また、自身で持っておられる方もいらっしゃる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物や手紙やはがきが届いた時は、本人に見てもらい、自室で管理して頂いている。また電話の取次ぎもさせて頂き、会話ができる様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を感じて頂く為に、机やソファ等をリビング・食堂に配置し、気心の知れた方との団らんの場を確保している。四季折々の飾り等を配置し、季節を感じて頂いている。	リビングには生花や季節の絵を飾ったり、窓から見えるベランダにはトマトやピーマンなど季節の野菜が多く作られ、季節を感じることができます。ゆったりと寛いで過ごせるよう多くのソファを置き、毎日利用者と一緒に掃除や換気を行い、温湿度計の確認や利用者の体感等も聞きながら湿度や温度管理を行い快適に過ごせるよう配慮しています。テーブル席は利用者同士の相性等により変更することもあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや食堂など、利用者個々に好きな場所で気の合った方と過ごせる様に、フロアの配置の工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで慣れ親しんだ家具等を持参してもらい、自宅と同じ様な配置を行う事で、利用者個々に心地良い空間を作れる様、援助している。	入居時に使い慣れた物を持参してもらうよう伝え、筆筒や仏壇、自身のアルバム、家族の写真等の他、ギターや絵の道具等の趣味の物を持ち込まれ動線等を考慮し家族と相談しながら配置をしています。自身で作った人形や縫いぐるみ等も飾りその人らしい居室となるよう工夫をし、換気や掃除も毎日行い快適に過ごせるよう努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアはバリアフリーとなっており、手擦りを伝える事でほぼ全ての場所に移動出来る様になっている。各居室・トイレ・浴室のドアには表記している。		